

会議の名称	第1回 阪南市外部評価委員会（案）
開催日時	令和元年7月12日（金） 午後6時00分～午後8時00分
開催場所	阪南市役所3階 全員協議会室
出席者	【委員】 壬生委員長、掛谷副委員長 【事務局等職員】 森貞総務部長、藤原室長、石本室長代理、高倉室長代理、楠本主幹、大野総括主査、鎌原主査、奥野総括主事、大野主事、奥田
会議の議題	1. あいさつ 2. 委員長・副委員長選任 3. 行財政構造改革プランの進捗について その他
公開・非公開	全部公開
傍聴人数	0人

1. 開会 あいさつ

○事務局より

令和元年度第1回阪南市外部評価委員会を開催する。

各委員の紹介。

事務局の紹介。

資料の確認。

2. 委員長・副委員長選出

委員長に壬生委員、副委員長に掛谷委員を選出

3. 行財政構造改革プランの進捗について

○事務局より説明

・行財政構造改革プランの本編について

行財政構造改革プランの背景等について、本市では、高齢化が進み、生産年齢人口割合の減少や公共施設の老朽化問題、地方分権の進展など、多様化・複雑化する行政課題が数多くある。

また、財政面においては、まず歳入として市税や交付税の減少、歳出では社会保障関連経費や人件費、老朽化する公共施設への対応など、経常経費等の増大、また組織面では業

務量の増加や複雑化などといった課題が顕著に現れてきている。

これらのことにより、このままの行財政運営が続けば、やがては財政運営が厳しくなり、事業の推進や新たな行政課題に経営資源を投入することができなくなるといった事態が想定される。

4ページから13ページまでにおいては、本市を取り巻く環境と財政状況にかかる行政課題であるデータをグラフ化したものを掲載している。

・ 阪南市の財政構造について

財政状況の悪化の要因については、財政力が低い、民生費が増大している、公有施設が多いという3点がある。1点目、財政力が低いことについて、類似団体と平成29年度決算と平成19年度決算を比較している。人口一人あたりの地方税額というグラフで注目してもらいたいのが構成比。構成比は、歳入の全体に占める地方税の割合を示すものであり、阪南市は全体の収入の内、市税が3割を切っている。類似団体では、平成19年度では約5割近くを占めており、平成29年度においては、35.7%と類似団体も減っているが、35%程度は維持できている。阪南市は、人口減少しているが、構成比としては、減少していないので、維持はできているが、それでも3割を切っており、構造上問題である。2番目の民生費の増大、民生費については、国保や介護保険、後期高齢者医療等の特別会計への繰出し金が含まれている。その他、障がい者、児童といった扶助費の全般が入っている。社会保障関連経費が伸びているのが課題の2点目、特に10年前との比較では、平成19年度では類似団体よりも阪南市の方が、人口一人当たりの民生費は低かったが、平成29年度決算では、類似団体を上回っており、10年前から逆転している。少子高齢化は、日本全体の問題であるが、阪南市の伸び率は類似団体を上回る。決算総額では、平成19年度では約51億円の民生費が、平成29年度では、約81億円となっており、10年で約30億円程度、民生費だけで増加している。財務省の推計では、高齢化に伴い、2040年までは伸びる見込みが示されている。3点目の要因は、公有施設が多い。人口一人当たりの公共施設の床面積に関するグラフでは、他市と比較すると平均値よりも頭一つ抜けている。公で所有している施設が多いということで、老朽化も進行している。改修するには多額の投資的経費が必要。平成28年度策定の公共施設管理計画では、毎年約17.7億円が必要になってくる。平成28度に行った投資的経費が約18億円程度になっている。施設だけで約17.7億円を毎年つぎ込んでいくのは、財政上困難。公有施設が多いということは、それを管理する職員が多い。類似団体比較すると、人口一人当たりの職員給の額が、類似団体との差が約6,000円。人口約5万5千人の阪南市で考えると、約3.3億円程度、類似団体より多い。こういった3点の要因が阪南市のもつ構造的な課題。こういった課題がある中、行財政構造改革プランの策定において、目的、期間を定め、集中的に行財政構造改革を行うこととしている。

本市の人口減少と少子高齢化からくる歳入と歳出のバランスの取れていない財政構造を打破すべく、基金頼みの行財政構造を解消するとともに、人口減少局面においても、将

来の世代に過度の負担を残さないため、施策・事業の「選択と集中」を行い、「しなやかで力強い」行財政運営の確立を図ることを目的として策定している。

また、期間については、短期的、中長期的に取り組むものに分けて考えていくこととしており、短期的には、行政の健全化を図ることが急務であり、歳入に見合った予算の編成を行い、財政危機の回避を図るというものである。

また、次の15ページでは、本計画を財政再建ではなく、構造改革プランとしていることから、時代に即応した重点化する事業に投資することで、地域社会・経済の活性化につながる好循環を生み出すことをめざしている。

・行財政構造改革プランの別冊について

プランの具体的な取組項目は4項目となっている。これらの取組項目は各課とも調整し、設定。プランには、今後、取組の可能性のある項目も記載しており、策定時のプラン効果額としては「－」で設定している。

プランに掲げた項目を完全に実施したとしても、令和4年度において財源不足が、プラン策定時点において、約4億5千万円程度になるシミュレーションとなっている。

平成30年度の取組結果を反映した現状のシミュレーションについては、総人件費の抑制等の取組により、財源不足見込みはやや改善し、現状は、令和4年度において、財源不足額が、約2億2800万円となっている。

今後は、効果額を記載している項目の確実な実施現在効果額を「－」で設定している項目を早期に取り組むことが重要。現在、プランの進捗について、各課とヒアリングを実施している。

今回委員のお二人には、プランを進めるにあたり、課題等、ご意見をいただけたらと考えている。

また、プランの項目は多岐にわたることから、本日は、項目を絞って審議していただきたい。

「阪南市行財政構造改革プラン進捗状況一覧」をご覧ください。

P. 1が取組2. 財源の積極的な確保未利用財産等の利活用・処分。P. 2～4が同じく取組2 受益者負担の明確化・公平性の確保、P. 5～8が取組3. 事務事業の見直し等の事務事業の見直し、P. 9～11が同じく取組3 公共施設の再構築の項目となっている。

それぞれ、当初策定時の効果額の根拠、また、現在の進捗状況について、記載している。

本日は、こちらの進捗状況一覧を基にご意見をいただきたい。

【主な質疑応答】

掛谷副委員長

概要版にある、平成30年度の取組結果により財源不足の見込みが改善したとのことであるが、要因は。

行政経営室

まず、今回のシミュレーションは、平成30年度決算ベース見込で作り直している。平成30年度の効果は、特別職及び管理職の給与カットが一つ。令和元年以降は非管理職の給与カットも効果として、取組を進めている。その他には、臨時的な収入があり、行革の取組とは関係なく、決算見込によるもの。行政運営の中で、歳出額の不用額等によるものである。不用額等の主なものは、下水道事業会計の繰出金の減少。水道事業の広域化に伴う退職手当金の精算金が一般会計に臨時的な収入となったものである。

掛谷副委員長

人口一人当たりの職員給の額が類似団体より高いとなっているが、派遣やアルバイトの人の人件費は反映されているのか。本当に、職員給が高いのか。

行政経営室

臨時職員は分けて考えている。職員給の額については、人口一人当たりで換算。職員一人当たりの給与が高いということではなく、施設の数が多いことにより、張り付く職員総数が増えるということで、施設における職員全体の人件費が高いという分析である。

掛谷副委員長

職員の給与カットは、職員のモチベーションに影響することを懸念する。施設が多いのは事実だと思うので、施設をどうするのかを考えた後、適切な職員数や給与を考えていく必要がある。

壬生委員長

公共施設等総合管理計画を作成した後のスケジュールを確認すると個別計画を策定していくとなっている。プランにある指定管理や統廃合等も関係してくると思うが、現時点のスケジュールや考え方は。

行政経営室

施設の統廃合は、現在、幼稚園・保育所の整理をしているところ。小・中学校については、一定整理はされたと考えている。施設の個別計画を策定する必要があるが、計画の策定当初は、155の施設であったが、水道の統廃合により、施設数は減っており、123施設となっている。現在は、幼稚園・保育所が今後の課題と考えている。

壬生委員長

他市を見ても、教育施設の統廃合を進めようとしているところが多い。行革の視点から言えば、順調に進めばと思う。その他に譲渡も含め、検討している施設はあるのか。

行政経営室

住民センターが43施設あり、あり方検討ということで、審議しているところである。

壬生委員長

そのあたりを進めていくことで、公有施設の課題の目途はたつということか。

行政経営室

公有施設の課題は、担当課で進めていただかないといけないと考えている。プランで「一」で設定している取組については、数値を入れるようにしていきたい。

掛谷副委員長

阪南市の目標は公有施設の数に類似団体並にすることか、それとも類似団体並にすることで、財政が改善されるということか。どこが目標になっているのか。

行政経営室

公共施設の総合管理計画では、床面積を目標値に掲げている。

掛谷副委員長

総合管理計画の目標値を達成すれば、どれくらいのインパクトがあるのか。

行政経営室

155施設を維持しようとするれば、年間約31億円の維持管理経費がかかる試算をしている。180億円程度の財政規模の予算では、到底もたない。令和27年に32%を削減の計画を持っている。そこでようやくスタートラインに立つと考えている。財政状況で自主財源が弱いのはすぐには改善できない。一方で、施設を多く抱えてきている。まずは、類似団体並が良いとは思わないが、せめてそこまではしないとといけないと考えている。

壬生委員長

指定管理の取組で、今年度や来年度から効果額が入っている取組は、既に指定管理が決まったのか、それともそれに向けて、順調に進んで行っているのか。また、プランでは、今年度から効果額が入っているが、効果額が0になっている取組はどのような状況か。

行政経営室

プランに基づいて、進めているわけであるが、スケジュールが押している取組もある。コミュニティーセンターについては、計画通り進んでいる。また、MIZUTAMA館についても、検討課題はあるものの、一定進んでいるところである。効果額については、検

討次第確定するものと考えている。庁舎については、防災コミュニティーセンターと同様の課が担当しており、当初は、一気に進めていく予定であったが、同時並行で進めていくことが難しくなっており、コミュニティーセンターを集中的に進めているところ。庁舎については、今後、検討ということになっている。

壬生委員長

プランとの乖離がでると、当然、効果額が減少することになる。遅れることが必ずしも悪いことではないが、理由等を整理する必要がある。

掛谷副委員長

文化センターの使用料の見直しについては、当初、令和元年度から効果額を予定していたが、遅れているということか。

行政経営室

当初は、平成31年度の10月から使用料の改定を予定していたが、スケジュールが押している。現在、担当課と調整中であり、使用料改定に向けて、進めているところ。

掛谷副委員長

使用料・手数料に関して、受益者負担比率が低めの値になっていると思うので、早期に進めていく必要がある。

壬生委員長

使用料・手数料は多くの施設にわたる。プランでは、生涯学習推進室の取組にだけ数値が入っているが、他の課についても、進めていくということによいか。

行政経営室

阪南市の手数料については、原則、3年で見直しとしている。原価計算に基づいて、使用料・手数料が適切かどうかを判断している。昨年度から公会計を財務書類で整備しており、受益者負担のバランスがとれていないことも浮き彫りになってきたことから、今後は、その部分も検討する必要があると考えている。

壬生委員長

目標期日はあるか。

行政経営室

プランでは、平成33年度までを短期的な目標として掲げていることから、それまでに

検討できればと考えている。

壬生委員長

減免の基準の見直しについて、使用料等の改定と並行して進めていくのか。使用料を上げたとしても、減免によって効果がでない可能性もあると考える。

行政経営室

減免の統一的な基準の見直しについては、取組が遅れている。使用料とは同時に進めていければと考えている。本市では、減免団体の使用が多い。減免団体の使用に対する見直しが必要と考えている。

壬生委員長

減免をやめた際の、効果額は試算できているか。

行政経営室

今、各施設の数値はもっていないが、それぞれ百万円程度の効果はあると思う。

壬生委員長

大変な作業となるので、効果が見込める取組を優先的にするべき。

掛谷副委員長

優先順位をつけるために、効果額の分析等のデータを持つておくのがよいと思う。

行政経営室

本市の使用料・手数料の平成31年度予算で約2.7億円の歳入となっている。本市の受益者負担比率が約2.6%で府内の受益者負担率が約4.3%。負担比率を上げることで、自主財源の確保に繋がると思うので、優先順位を決めて、進めていく必要があると考える。

掛谷副委員長

ふるさと納税等、社会や経済の状況変化があったものは、一定見直す必要があると考える。プラン策定時と状況が変化している取組は随時修正をしていけばと思う。

行政経営室

ふるさと納税については、税法の一部改正に伴い、当初のプランの目標が困難というこ

とで、シミュレーション等の下方修正が必要と考えている。

壬生委員長

ふるさと納税の制度変更は、かなりインパクトがある内容。その他に、プラン実行にあたって、大きな影響を与えそうな取組はあるか。

行政経営室

プランには、基本的に行革のプラス効果ができる取組を見込んでいる。プランへの影響については、臨時的な要素が考えられる。例えば、会計年度任用職員については、今後ボーナス等の支払いが必要になってくるが、今後のシミュレーションには反映できていない。こういった臨時的な要素が大きく影響してくると考える。

壬生委員長

会計年度任用職員については、プランの人員の配置基準の見直し等の取組の効果額を相殺する恐れがあると思う。対応策があるか。

行政経営室

予算規模の縮小といった運用が現実的と考えている。

壬生委員長

例えば、予算規模の縮小で会計年度任用職員の縮小となれば、市民サービスの低下につながることを懸念する。会計年度任用職員の導入については、業務分担もきっちりしていく必要があると思う。また、その準備に対する業務量もかなり出てくると考える。

行政経営室

会計年度任用職員については、非常にインパクトがある。概算で言えば、約1億円は上がる想定で、経常収支比率が約1%上がる試算となる。AIの導入による人件費の抑制や外部委託も含め、市役所の役割を検討する必要があると考える。

壬生委員長

プラン全てを取り組むにあたって、職員数等を考えると、非常に困難ではないかと考える。職員に負担がかかりすぎないか気になる。やはり優先順位を決めていく方がよい。

行政経営室

施設の数にも関連するが、阪南市は、これまで市民サービスを上げすぎてきた経緯もある。受益者負担比率もそうである。活発な市民さんもいるが、施設の利用等に無料のもの

はないので、市民さんにも受益者負担の考え方を理解していただく必要もあると考えている。使用料を上げるときは、給与カットをした際ではかできないとも考えている。職員の業務を増えてきてはいるが、適切なタイミングと内容で使用料の見直しが必要と考える。

掛谷副委員長

業務を効率化できるシステムを導入するなど、短期的には投資的な経費が発生するが、長期的な視点で判断すれば、業務の効率化になると考える。また、長期的なシミュレーションが適時に確認できるようなシステムになっておれば、優先順位を決めるのにも、効果があると考え。また、職員の負担軽減も図れるようになると考えるので、負担もなく、効果的な取組をお願いします。

行政経営室

現在のシミュレーションはエクセルで作成している。財務会計システムの更新時期が目前に迫っており、財務会計システムで財政シミュレーションを出せるものもあるとは聞いてはいるが、本市の実情では、導入はどうかとも考える。もちろん、長期のシミュレーションを作成する際は、影響効果のあるところは当然シミュレーションに反映していく。

壬生委員長

進捗管理について、毎年3月頃に出して、5年後に総括するのか。目標年度はいつか。

行政経営室

短期的には、令和3年度までに基金頼みの行財政運営の解消を目標としている。

壬生委員長

いかに効果がでる取組から集中して取り組まないと達成できないのでは。取組項目の中で、優先的に担当課に頑張ってもらいたい取組はあるか。

行政経営室

未利用財産等の利活用・処分、受益者負担の明確化・公平性の確保、事務事業の見直し、公共施設の再構築の4点を重点的に取組む必要があると考えている。

壬生委員長

未利用財産等の利活用・処分で、推進手法を構築とあるが、実際の効果額が出るまで、期間がかかると思う。現在の状況は。

行政経営室

未利用財産については11施設あり、その内、現在、旧尾崎公民館のサウンディング調査を実施し、進めているところである。相手方もあることから、効果額については、現時点では入っていない状況である。また、貸付収入の確保のサウンディング調査も同時に進める予定。

掛谷副委員長

「一」の取組は様々な要因があり、数値が入っていないと思うが、「一」の取組に数値を入れていくことを期待する。また、利活用の処分が困難であれば、貸付収入を検討するなど、うまく調整するのは行政経営室だと思う。

壬生委員長

働き方改革・人材育成・協働について、職員のモチベーションの維持が懸念する。行革プランに取り組んでいくには、各課が新しい情報を取得することが大事になる。また、行革を考えるためには勉強が必要。行政経営室には、行革の取組に触れる機会が多いと思うが、他課は少ないと思うので、可能な限り工夫して、そういう機会を増やして欲しい。

掛谷副委員長

プランを進捗していくためには、ひとつひとつの進捗管理というより、全体をみて、効果額や実効性のハードル等を踏まえ、優先順位を決めて進めていく必要がある、それには、行政経営室が率先していただけたらと思う。

壬生委員長

行政経営室が担当課と調整するなりして、一定方向性を出すことで、取組が進むものもあると考える。そういった内容があれば、ぜひ検討してほしい。また、次回は、昨年3月に策定された「阪南市行財政構造改革プラン進捗状況一覧」の中間報告を提出していただきたい。

(閉会)